

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	M.F	学部・学科	国際商学部国際商学科
学 年	2	派遣国	ニュージーランド
派遣大学	リンカーン大学		
コース名	第二クォータープログラム		
期 間	2026 年 8 月 1 日～ 2026 年 8 月 28 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

初日にオリエンテーションがあった。そこで、コースで学習する内容及び注意・禁止事項を説明された。また、writing と speaking のテストを受けて、レベル別に 4 クラスに振り分けられた。Class は、speaking & Listening、Writing、Reading、Research Skill があった。まず、Speaking & Listening のクラスでは、一週間ごとに異なるトピックを扱った。地理や SNS、マスメディアについてのクエスチョンに対するアンサーを自分なりに考え、友達とディスカッションした。そして、その扱っているトピックに関する単語を学ぶほか、YouTube を視聴し、T/F に答えた。全体で質問されたら、小学校の授業みたいに答えたい人が答えていた。挙手をする必要がないため答えやすく、私は発言することが多かった。最終週には、プレゼンテーションがあった。パワーポイントを作成し 1 分間～2 分間みんなの前で話した。つぎに、Writing のクラスでは、アカデミック writing やエッセイの書き方を学んだ。2class 毎に違うトピックについて考えて自分のアンサーを書き、先生からフィードバックをもらい修正していた。トピックは社会に関連している内容が多かった。書き終わらないと次回のクラスまでに書いて提出しなければならなかった。一番勉強している感があった class だった。つづいて、Reading のクラスでは、授業のはじめにスピードリーディングして記録していた。それと、週に一回アカデミックワードの単語クイズがあり、配布された資料のうち指示された範囲を覚えなければならなかった。その際に、Word list を作るように言われていた。でも、提出はする必要がなかった。宿題は、長文読解を月曜日にだされて次の月曜日までに終わらせればよかった。授業は、文章を読んでそれについてのディスカッションをしたから、友達と話す機会が多かった。英語の文章の読み方を教わって、それを実際に実践して読む練習をした。さいごに、RS (research skill) のクラスでは、3 週間にわたってレポートの書き方を教わりながら、提示されたトピックについてのレポートを書いた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

アカデミックライティング、エッセイ、レポートの書き方や英文の要約や言い換えの仕方を習った。例えば、ライティングの基本は、イントロダクションとバックグラウンドを書き、ボディーパラグラフは二つ書く必要があり必ず具体例を述べ読み手に分かりやすくする。最後は、全体のサマライズと最初にした段落をパラフレイズした文章を書くなどだ。そして、グラフから読み取れる内容を書く時の仕方を教わった。加えて、パラフレイズするときは、英文の意味をよく理解することが大切で、何度も読んで理解を深めてから、別の単語や違う文法に変えることが分かった。また、リーディングの class では、スキミングで必要な情報を素早く長文の中から見つけるスキルや、文章を読んでいる時に知らない単語に出会ったら、どう対処すればいいのかを知った。プラスで、スピードリーディングでニュージーランドにまつわる内容を読んだから、文化を少し知れたと思う。コンペアとコントラストの違いを始めて知った。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

英語の長い文章をかくことへの抵抗感が完全にではないがなくなった気がする。具体的な英文の書き方を教わったのと、毎回自分で考えて調べて英語で文章を書くことに少し慣れたからだと思う。また、単語を英語で調べて英語で理解する、当たり前だけど英文を授業ごとに読む機会が多かったから、ちょっと長い英語の文章を読むことへの抵抗感も軽減した。英語のまま受け入れることができるようになった気がする。絶対日本語に訳さなきゃという気持ちがなくなった。英語を話すことの恥ずかしさがより消えたと感じる。元々英語を話すことに対して、すごく恥ずかしさや抵抗感を感じるタイプではないが、それでも気恥ずかしさなどはあった。でも、授業内の発表やディスカッションなどを通して、友達と話すうちにほぼなくなったように思う。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

英語に対する抵抗感が以前よりもなくなったから、継続して英語を勉強していきたい。しかし、私的に英語に対する抵抗感がなくなった理由が、勉強感なく楽しんで英語に触れていたことが要因だと思っている。だから、私は読書が好きでニュージーランドで本を買ったので、それを読み、英語でできることは英語でして、これからも生活の一部にしていけたらと思っている。また、せっかく授業で習った知識がなくなるのは勿体無いから、英語の授業を取ってみたり、TOEIC などの資格の勉強に生かしたりしていきたいと考えている。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	M.S	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学 年	二年	派遣国	ニュージーランド
派遣大学	リンカーン大学		
コース名	English for Academic Purposes		
期 間	2026 年 8 月 3 日～ 2026 年 8 月 28 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

Writing, reading, listening and speaking, research skills の主に 4 つの種類の授業があった。すべて 50 分授業のため、日本の大学の講義よりも短く集中しやすかった。Writing のクラスでは、演習しながら文の構造や種類を学ぶことができた。授業の前半では、その日のトピックについての理解を深め、トピックに関連する単語を習ったり文の構造分けをしたりした。それを踏まえて、ノートに与えられたテーマに沿った文章を書き、先生が添削するという流れだった。毎回 introduction, body paragraph1, body paragraph2, conclusion という組み立て方で書き進めていき、1 つの paragraph が書き終わるたびに先生から添削、アドバイスをしていただいた。Reading のクラスは、ペアワークやグループワークが多く、和気あいあいとした雰囲気だった。私のクラスは日本人が多く、座席も日本人同士で固まってしまうがちだったが、先生がランダムに作るグループやペアのおかげで、他の国の人たちと交流する機会ができてとても楽しかった。知らない単語が出てきたときには、word で配布された単語リストに意味を調べて書き溜めていった。また、定期的に speed reading も行われ、読み終わるのにかった時間と、付属の問題 10 問中何問正解できたかを word で配布されたシートに記録していった。最終日には単語リストと speed reading シートを開いて、1 か月の成果を感じることができた。Listening and speaking の授業では、グループプレゼンを 2 回ほど、最後に個人プレゼンを 1 回した。短い時間の中でプレゼンを準備するのは難しかったが、回数を重ねるごとに慣れていき、最終個人プレゼンでは英語でスムーズに発表することができた。Research skills のクラスでは、1 か月を通して 1 つのレポートを書いた。私の参加したモジュールでは two bodies of water というテーマが与えられ、私はスエズ運河とパナマ運河の 2 つを比較した。すべて英語で学術的にレポートを作るのは難しかったが、先生が丁寧にフィードバックを作成してくださり、修正すべきところが分かりやすかった。すべての授業において先生方は優しく、とても恵まれた環境で英語を勉強できたと思う。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

リンカーン大学の EAP コースでは、英語を学術的に運用するための基礎から応用まで、幅広い知識とスキルを身につけることができた。Writing では、英語の論理構造を理解し、段落ごとの役割や展開方法を体系的に学んだ。特に、主張・根拠・例示を明確に示すアカデミックライティングの基本形式を繰り返し練習したことで、英語で論理的に文章を組み立てる力が向上した。Reading では、速読の方法や語彙の効率的な習得法を学び、文章の要点を短時間で把握するスキルが身についた。また、複数の視点から内容を読み解く姿勢が求められ、批判的思考を伴う読解力が鍛えられた。Listening and Speaking では、英語で情報を整理し、短時間で発表内容を構成する力が伸びた。プレゼンテーションを重ねる中で、聞き手に伝わる話し方や視線の使い方など、実践的なコミュニケーション技術も学ぶことができた。Research skills では、英語で調査を行い、情報を比較・分析してレポートにまとめる一連のプロセスを経験した。引用の方法や参考文献の扱いなど、学術的な形式に沿って文章を作成するスキルが身についた。これらの授業を通して、英語を「学ぶ」だけでなく「使って学術的に表現する」ための知識と実践力を総合的に高めることができた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

EAP コースを受講する前は、海外で英語を学ぶことへの期待と同時に、授業についていけるかという不安も大きかった。特に、英語でコミュニケーションをとったり、プレゼンをしたりすることに対しては、自分の力が十分なのか自信が持てなかった。しかし、実際に授業を受け始めると、先生方の丁寧なサポートやクラスの温かい雰囲気のおかげで、少しずつ緊張がほぐれ、挑戦する気持ちが強くなっていった。毎回の添削やフィードバックを通して、自分の弱点が明確になり、改善できる手応えを感じられたことは大きな自信になった。また、プレゼンテーションやグループワークを重ねる中で、英語で伝えることへの抵抗感が減り、積極的に発言できるようになった。授業を終える頃には、英語を使って学ぶことへの不安よりも楽しさが勝り、今後もさらに力を伸ばしたいという前向きな気持ちが生まれた。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の EAP コースで身につけた英語の基礎力と学術的な学び方は、今後の大学での学習に大きく役立つと感じている。特に、英文の構造を理解して論理的に文章を書く力や、情報を整理して発表する力は、レポート作成やゼミでの議論に直接生かすことができる。また、英語で調べ、比較し、まとめるという一連のプロセスを経験したことで、国際的な視点から物事を考える姿勢が身についた。学術的な読み方、書き方等を勉強できたことは、日本語の授業であっても生かすことができると考える。今回得た自信をもとに、学業をより主体的に進めていきたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	S.K	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	3年	派遣国	ニュージーランド
派遣大学	リンカーン大学		
コース名	B コース:英語語学研修		
期 間	2026年8月1日～ 2026年 8月29日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は、writing, reading, speaking & listening, research skill の4つの講義を受講した。Research skill のクラスを除いて、週ごとにテーマを定め、そのテーマに関連した授業のトピックや課題が科されるというものであった。Writing のクラスでは、毎授業初めに5分間のライティングの時間が与えられる。ペア同士でブレインストーミングを行ったあと、時間内に何単語の文章が書けたかを数えるものであった。課題の面では、毎週末150、250単語を目安のエッセイや、授業内で書いた文章の添削・書き直しが科された。Reading の授業内容は、毎授業初めに文章を読み問題を解く、というものを行い、読むスピードと正答率を毎回メモしていた。Speaking & listening の授業では主にコミュニケーションをメインで行った。毎週末、英語の動画を見るという課題があり、その内容についてペアで話し合うといったことを行った。

Reading や speaking & listening の授業では、padlet というサイトを使い、生徒が自由に意見を付け加えられるようなシステムがよく使われた。

Research skill では“two bodies of water”というトピックを扱い、1ヶ月かけてエッセイを仕上げていった。主にエッセイや参考文献の書き方を学んだ。

印象に残っている授業は consumerism についての講義である。子どもを対象とした広告の効果や危険性、消費者行動の見直しなど今まで取り組んだことのないトピックに英語で取り組んだことが新鮮で印象的であった。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500字程度)

授業を通して、英語を使って自分の考えを伝える力だけではなく、アカデミックな英語を読み書きするための様々な知識やスキルを身につけることができた。特に、ペアワークやグループワークの機会が多く、相手に自分の考えを伝える際に、限られた英語のボキャブラリーの中から適切な表現を自分で考えて使う力が身についた。また、相手の意見を聞いた上で自分の考えを発展させたり、異なる意見について英語で意見を交換したりする経験を通して、英語でのコミュニケーションへの抵抗感も減った。さらに、エッセイの構成や論理的な文章の書き方、英語での参考文献の示し方など、大学での学習にも活用できるアカデミック・ライティングの基礎を学んだ。加えて、スキミングなどの読解方法を学び、長い英文の中から重要な情報を素早く見つけ、文章全体の大まかな内容を把握する力も向上した。これらの学習を通して、単に英語を理解するだけではなく、英語を用いて自分の考えを論理的に表現し、必要な情報を効率的に取り取る力を身につけることができた。今後は、大学でのレポート作成や英語の文献を読む際にも、留学中に学んだこれらのスキルを積極的に活用していきたい。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400字程度)

授業を受ける前は、英語で自分の意見を相手に上手く伝えられるのかという不安があった。特に、自分の考えを日本語と同じように細かく表現出来ないことに難しさを感じていた。しかし、実際に授業でペアワークやグループワークを繰り返す中で完璧な英語でなくても、自分が知っている単語や表現を組み合わせることで、十分に考えを伝えられることに気がついた。また、授業を通して、英語には自分が知らなかった様々な言い回しや表現があることを知り、英語で話すことへの抵抗感も少なくなった。さらに、授業後は「自分の意見を伝える」ことだけでなく、「相手の意見を聞いて、それを踏まえて自分の考えを改めて考える」ことも大切だと感じるようになった。異なる意見に触れることで、自分一人では気づかなかった考え方を知ることができ、英語を単なるコミュニケーションの手段ではなく、自分の考えを広げるための手段として捉えられるようになった。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300字程度)

今回の留学で身につけた英語で自分の考えを伝える力や、文章を読み取る力、アカデミック・ライティングのスキルを、今後の大学生活での学業に積極的に活かしていきたい。特に、授業やゼミで自分の意見を発表する際には、相手の意見にも耳を傾け、それを踏まえて自分の意見を深めることを意識したい。また、英語の文献を読む際には、スキミングなどの読解方法を活用し、必要な情報を効率的に見つけられるようにしたい。さらに、レポート作成では、留学中に学んだ論理的な文章構成や参考文献の示し方を実践し、より説得力のある文章を書く力を身につけて行きたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	R.K	学部・学科	国際商学部国際商学科
学 年	3	派遣国	ニュージーランド
派遣大学	リンカーン大学		
コース名	English for Academic Purposes(EAP)		
期 間	2026 年 8 月 1 日～ 2026 年 8 月 29 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は、ライティング・リーディング・スピーキング&リスニングの3種類に加えて、リサーチスキルの授業があった。毎週扱うテーマが変わっていき、1週目はニュージーランドの自然や動物、2週目は、マスメディア、3週目は、グローバリゼーション、4週目は、消費活動がテーマだった。すべての授業でグループやペアで意見を交換する場面が多く、座学よりも全員でコミュニケーションをとりながら進めていく授業形式だった。

ライティングの授業では、ライティングの問題で頻繁に課される形式を6つの種類に分けて書く練習やグラフの読み取り問題を行った。それぞれの文章構成やエッセイを書く際に、繰り返し同じ単語の使用を避けるために言い換えを行うことを学んだ。課題に関しては、テーマを課されて、自分自身で1からエッセイを書いてくる課題が何度かあった。授業内と課題の両方とも自分が書いたエッセイは先生が添削をしてくれフィードバックをくれるため、改善点やできている点など自分の実力を知ることができた。

リーディングの授業においては、素早く読むために毎授業、500語程度の文章を時間を測って読むことや、スキミングとスキミングの二つをできるようになるよう練習を行った。また、課題として、英語の本を読んできることや分からなかった単語をまとめたワードリストを作ることがあった。

スピーキング&リスニングでは、最終週に5分程度のスピーチを行ったことや、2週目には身の回りにあるものを売るための広告動画を作成するなどを行った。その他にも発音の練習やディクテーションを行った。また、課題として英語の動画やポッドキャストをみて、その内容を要約し共有するものがあった。

リサーチスキルでは、大きな川や湖、運河を2つ選び、それらを比較して、どんな役割をしているか、どんな特徴があるかについてのレポートを書くものだった。AIの使用については厳しく禁じられていた。授業内では参考文献の書き方や、インターネット上の情報を自分の言葉で言い換える練習を行った。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

英語だけの授業に慣れていないため、内容を理解するために集中力が必要だったが、一つの授業が 50 分授業だったこともあり、集中することができ、あっという間に感じた。また、日本語と違い英語のほうが話すスピードが速く感じたが、内容を理解し、話についていくことが 2 週目くらいからできるようになっていった。

ライティングでは、文章構成や言い換え、どのポイントに注目して書くべきかなどを学ぶことができた。

リーディングでは、毎日のスピードリーディングによって、読むスピードを速くすることや難しい単語に対しての意味を推測するアプローチや語彙力を鍛えることができた。

スピーキング&リスニングでは、どのようにしたら伝わりやすいかを考えて話し、人前で英語を話すことに抵抗なく話せるようになっていった。

リサーチスキルでは、レポートを書く際に、どの点に注目するか、どのように情報を集めていくか、どのような構成で書いていくかを学び、されに英語でレポートを完成させたことでいい経験になった。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前では、授業についていけるのか、英語で上手くコミュニケーションをとることができるのかといった不安があった。毎授業の最初に、自己紹介や週末になにをしたかといった話しやすいテーマをペアやグループで話す時間があり、徐々に英語でのコミュニケーションをとることができるようになっていった。また、日本人以外の生徒との会話では、最初はお互いの国のいいところを言い合うなどして、仲を深めることができた。先生も話を振ってくれることが多く、自然と発言できる雰囲気であり、授業を受けやすかった。他国の人と話をする際には、お互いの文化や価値観が異なるため、新しく知ることや学ぶことも多かった。これらを通して、授業を受け終えた今は、受ける前よりも自身の英語力に自信を持つことや、間違っても発言することや積極的にコミュニケーションをとろうとする勇氣が大切だと感じることもできた。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

1 か月の海外での生活を通して、ホストファミリーとの会話や授業内での意見の交換において自分が伝えたいことを 100%で伝えることの難しさや自分自身の英語力がまだまだ不十分だと感じた。特に 4 技能でいうと、リスニングとスピーキングが課題だと感じたため、日常から英語を聞くことや話すといったことを実践し継続していきたいと感じた。TOEIC など自身の英語力を数値化できるものにも挑戦したいと思った。1 か月の間、英語を話してきたことを無駄にしないように今後も日常的に英語に触れて生活をし、英語力をさらに伸ばしていきたいと感じている。英語を学ぶこと以外でも、海外での日常生活で直面した困難や経験も自身の成長に繋げられるように生かしていきたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	J.I	学部・学科	国際教養学部国際教養学科
学 年	2	派遣国	ニュージーランド
派遣大学	リンカーン大学		
コース名	英語語学研修		
期 間	2026 年 8 月 3 日～ 2026 年 8 月 28 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

リンカーン大学の授業は、writing・reading・listening & speaking・research skill という4項目から成り立っていた。writing や research skill では主にエッセイの構造や書き方について多く学び、エッセイを期間内に書き上げてくるなどの課題があった。また、reading では英文を読むうえで貴重な批判的な考え方や着目すべきポイント、読むうえでのスピード感について教わり、英文を読んで問題に回答する形式の課題が出された。そして、listening & speaking では英語の動画を見聞きし、その内容に沿った学習を通してミニプレゼンテーションなどをグループで行うという形で学習を行った。これらの授業の中で特に印象に残ったものは、listening & speaking の最後の授業で行われた個人で行うプレゼンテーションである。これは、一人当たり2分程度で、台本などを見ずにプレゼンテーションを行い、それが終わった後に質疑応答を行うという形式だった。プレゼンテーションから質疑応答まで完全に英語でやらないといけないので、英文の構成、話す力、聴く力のすべてが求められる集大成的な授業であり印象的だった。自分が話すというだけに限らず、様々な人の発表を聞き、それに対して質問するなど授業全体を通して多くの力が求められていると感じ、成長につながるものだった。他にも、writing、reading の最後に行われるテストでは、学んだ知識を最大限発揮する場として印象的だった。時間制限が設けられる中で、初見の問題に対してこれまでの授業で得た技術や力をすべてつぎ込んで行うという経験を通して、一層学んだことが定着していく感覚とそれへの喜びや英語学習への楽しさが得られ、授業とは言えないかもしれないが、演習として非常に印象に残るものだった。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

まず、writing では、これまで適当に書いていた英語長文の書き方について基礎となるものを学べた。序論、本論、結論という構造は勿論、それぞれを構成する文がどういう役割を持っているとどのような順番で書くと効果的かなどまで学び、あやふやだった点が一気にクリアになった。また、時間制限の中で長文を作成するという経験から、頭に日本語で浮かんだことをすぐに英語で表現しながら文章を書くという行動の流れをよりスムーズに行えるようになったと感じた。次に、reading ではスピードリーディングの概念について理解できた。これまでは長文を読む際不要なところまで慎重になってしまう癖があったが、読む際に必要となる情報を先に把握したうえで、速読すべきか否かを判断したりすることが重要なだと分かった。また、授業では 500 字程度の長文を速読したうえで問題を解くというものがあり、そこでは問題の正解数 7/10 を目指されていた。私は正解率や正確性というものに重きを置きすぎて速読しろと言われても素直にすることができていなかったが、逆に正答率 7 割を目指すという形式のおかげで、速読の際に意識する点を念頭に置きながら長文に挑めるようになった。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

最初は、完全英語で何時間も授業を受けるということに対し、不安でしかなかった。なぜなら、これまでの英語の授業は日本人の教師の方が担当してくれたり、周りが全員日本人だったという環境でやってきて、完全に母国語である日本語から脱却して英語のみを用いるという試みはしたことがなかったからである。また、教師や周りのクラスメートの話していることを理解できなかつたら授業に全くついていくことができない、という心配は特に大きかった。しかし、その不安は授業を通して徐々に解消されていった。最初は聞き取れなかったことも、授業に関わらず日常から日々英語に触れていることで、だんだんと聞き取れるようになり、その積み重ねが不安を自信に変えていった。日本語が使えないという環境でも、期間を通して順応することで少しずつ自己肯定感へとつなげていくことができた。最後には、まだ少しだけ残る不安と身に付いた自信の丁度いい間で授業しかり全体的な物事に取り組めた。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回のこの貴重な経験を通し、長文読解やその作成、英語自体にもっと触れていきたいと思った。留学で多く英語に触れ、できたことやできなくて悔しかったこと等色々あるが、その影響で以前より一層学習の意欲が現在増しており、学んだことを活かしたいという思いが強まっている。例えば writing で学んだエッセイの書き方をより定着させるために、多様なテーマで毎日一長文作成したり、reading で学んだ速読の技術をより磨くために、様々な分野の長文に日常的に触れてみたりして、学業をこれからも継続する。それを通し、積み重ね、TOEIC などの資格勉強などにも挑戦し、今回の留学で得た学術的な知識を、より発展させていきたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	K.O	学部・学科	国際教養学部
学 年	2	派遣国	ニュージーランド
派遣大学	リンカーン大学		
コース名	English for Academic Purposes (EAP)		
期 間	2026 年 7 月 4 日～ 2026 年 8 月 29 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業はリーディング・ライティング・スピーキング/リスニングの3つに分かれていた。それぞれその名の通りリーディングなどにフォーカスをあて授業が進められていった。共通していたのは、周りの人と話し合いや意見の出し合いなどコミュニケーションをとりながら進めていくということだ。私はあまりコミュニケーションをとることに自信があまりなかったので最初のころは戸惑った。しかし、周りのクラスメイトも同じように第二言語として英語を学んでいる最中の人なので、相手も自分のいうことを頑張って聞いて理解してくれようとしているのを見て、だんだんと間違えてもいいからコミュニケーションをとってみようという気持ちがわいてきて、徐々に積極的に話しかけることができるようになっていった。

ライティングに関しては、その場でテーマが与えられ、それに沿ったエッセイを書くという形のテストに向けた練習を主に行った。自分は最初のころは50分で2,3行しか書くことができなかったが、一か月目のおわりにはテストの目標である50分間で250文字を超えて書くことができるようになり、自分の成長を実感することができた。

リーディングに関しては、毎時間様々なトピックに関する文章を読み、それに関してクラスメイトとディスカッションをするといったことをした。

スピーキング/リスニングに関しては、トピックに関するディスカッションだけでなく、話をする中での婉曲表現などの、話のポライトネスについても学んだ。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

様々な方法で日常的に英語に触れることはできるが、それが必ずしもアカデミックな場でのライティングに使うことができるということではないということを知った。

エッセイの添削をしてもらう中で、これまで自分が使っていた表現が日常会話の慣用句的なものであり、アカデミックライティングでは異なる表現を用いなければならないという指摘を何度か受けた。その表現に代わるものを自分で探したり、考えて書くことは自分にとってとてもよい練習になった。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

プログラムが始まった最初の時期は、自分が引っ込み思案なことや自分の英語に自信がないということもあり、あまり他の人と話すことができなかった。しかし、授業のなかでよくディスカッションをする機会があり、その時にほかの人が英語を間違えることを恐れずにトライしている姿を見て、失敗を恐れずに、伝わればそれでいいのかと衝撃を受け、自分からも話しかけるようになることができるようになった。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

自分はあまり積極性をもって物事に取り組むということができないタイプではなかったが、今回第2Q プログラムに参加することで、みんなが自分自身の英語力を向上させるという同様の目標に向かって頑張っている場所に参加することにより、恥ずかしがらずに何事もやってみることが大切だと感じ、これから先に生かしていきたいと感じた。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	H.O	学部・学科	国際教養学部国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	ニュージーランド
派遣大学	リンカーン大学		
コース名	英語語学研修		
期 間	2026 年 7 月 6 日～ 年 8 月 28 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

私は、リンカーン大学の EAP (English for Academic Purposes) コースに 7 月から 8 月までの 2 か月間参加した。EAP コースは主にアジアから来た留学生で構成されており、1 か月を 1 モジュールとして授業が進められる。各モジュールの初日にレベル分けテストが行われ、その結果によってクラスが決定される。1 クラスは約 15 人の少人数制で、クラス数はその時期に在籍する留学生の人数によって変動する。7 月は留学生が多く、7～8 クラスほどあり、特に韓国の複数の大学から多くの学生が参加していたため、クラスの半数ほどが韓国人学生であった。一方、8 月には 7 月に参加していた学生の多くが帰国したため、4 クラスとなり、日本人学生が半数以上を占めていた。授業は 1 コマ 1 時間 50 分で、月・火曜日は 1～5 限、水・木・金曜日は 1～3 限まで授業が行われた。主な授業は、Writing、Reading、Listening & Speaking、Research Skills の 4 種類である。Writing と Reading はほぼ毎日、Listening & Speaking と Research Skills は週に 2～3 回程度行われた。Writing では、図表を読み取り、150 語以上で内容をまとめる Writing 1 と、アカデミックなテーマについて 250 語以上で自分の意見を述べる Writing 2 に取り組んだ。IELTS のライティング形式にも近く、Introduction、Body Paragraph、Conclusion の構成や、Background、Thesis、Overview など、それぞれの段落で何を書くべきかを具体的に学んだ。また、Linking Words や Synonyms の使い方についても学び、文章を論理的につなげる力を身につけた。Reading では、ニュージーランドに関する Speed Reading から始まり、新しい単語を確認した後、その週のテーマに関連する新聞記事やウェブサイトの記事を読んだ。分からない単語を一人ずつ調べ、その意味をクラスメイトと共有する活動が特に印象に残っている。Listening & Speaking では、モジュールの最後に行うプレゼンテーションに向けて、発音や話し方、発表の構成などを練習した。Research Skills では、モジュールを通して約 500 語のレポートを作成し、英語での参考文献の探し方や引用方法など、大学での学習にもつながる実践的なスキルを学んだ。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

この 2 か月間で、特に自信がついたのは英作文を書く力である。授業では、Agree or Disagree、Advantages and Disadvantages、Problems and Solutions など、さまざまな形式の問題に取り組んだことで、幅広いテーマに対応できるようになった。また、文章の構成だけでなく、自分の Main Idea をどのような具体例や理由によって支えるのかなど、論理的に文章を組み立てる方法も学んだ。留学当初は、英作文を書くことに苦手意識があり、何を書けばよいのか分からなくなることも多かった。しかし、授業を重ねるうちに、Introduction、Body Paragraph、Conclusion の役割を意識しながら、自分で文章の構成を考えられるようになった。特に、Writing の先生が毎回丁寧にフィードバックをしてくれたことが、自分の弱点を理解し、改善する上で大きな助けになった。また、英語を聞き取る力も向上した。最初は授業中の英語を半分程度しか理解できないこともあったが、先生方は分からないときにはゆっくり話したり、繰り返したりしながら、理解できているかを確認してくれた。そのため、間違いを恐れずに英語を聞くことができ、徐々に聞き取れる内容が増えていった。さらに、ホームステイを通して、ニュージーランド特有の英語の発音や表現にも慣れることができた。最初はホストマザーの英語をほとんど聞き取れなかったが、毎日会話をすることで少しずつ相手の話し方に慣れ、最終的には相手の伝えたいことを理解し、自分の考えも伝えられるようになった。この経験から、英語は授業だけでなく、実際に使うことで身につくものだ実感した。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

留学前は英語に苦手意識があり、英語で話すことに対して抵抗感があった。しかし、留学先では周りの留学生やホストマザーと意思疎通をするためには英語を使うしかなく、最初は自分の言いたいことをうまく伝えられず、もどかしい思いをすることも何度もあった。それでも、周りの人たちが優しく、私のつたない英語から言いたいことを推測してくれたり、分かりやすい表現に言い換えてくれたりしたため、「完璧な英語でなくても、伝えようとするのが大切なのだ」と考えられるようになった。授業では、Writing や Research Skills を通してアカデミックな英語を学ぶ一方、留学生やホストファミリーとの生活を通して、実際のコミュニケーションに必要な英語も身につけることができた。また、今回の留学で最も大きな収穫だったのは、さまざまな国の友人ができたことである。「この人たちともっと話したい」「自分の気持ちをもっと伝えたい」という思いが、英語を勉強する大きなモチベーションになった。帰国後も海外の友人と連絡を取り合っており、友人の母国を訪れる計画も立てている。留学を終えた今は、英語が完璧でなくても、勇気を持って話してみれば世界中の人とつながることができるという前向きな気持ちに変化した。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

帰国後も英語を勉強したいという気持ちが強く、今後は APE の授業や多文化交流ゼミの履修を検討している。また、今回の留学で身につけた英語力をさらに伸ばすため、TOEIC の勉強にも継続して取り組みたい。さらに、せっかく身につけた英語を忘れないように、英語を話す機会を積極的に作っていきたい。PE センターや留学生会など、留学生と交流できる場所にも実際に足を運び、英語を使う環境を増やしたいと考えている。今回の留学を通して、海外で生活することへの抵抗感も小さくなり、将来的にワーキングホリデーに挑戦するという選択肢も生まれた。今回得た英語学習へのモチベーションを維持し、今後の大学での学びや将来の進路にもつなげられるよう、継続して英語の学習に取り組んでいきたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	I.O	学部・学科	国際教養学部 国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	ニュージーランド
派遣大学	リンカーン大学		
コース名	英語語学研修		
期 間	2026 年 7 月 4 日～ 2026 年 8 月 29 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

初日のオリエンテーション当日に、大学でリーディングとライティングの技能を測るテストを受け、その結果をもとにクラスが決定されました。私は2か月間のコースを7月から受講したため、クラスには多国籍の学生が多く、日本人は私を含め2人でした。そのため、日常的に英語を使って積極的にコミュニケーションを取る環境で授業を受けることができました。授業は、Writing、Reading、Research、Listening & Speaking の4科目で構成されていました。Writing と Reading は週4日、Research と Listening & Speaking は週2日行われました。Writing では、Academic Writing の基本やエッセイの構成を学び、実際に文章を書いたり、グループワークでより Academic な表現への言い換えを考えたりしました。また、自分の意見を英語で書く課題が出され、次の授業で講師から添削やアドバイスを受け、文章を改善しました。2週目の終わりには、データの比較や類似点を説明する Writing のテストも行われました。Reading では、速読力と読解力の向上を目的として、授業の冒頭に「Speed Reading」に取り組みました。文章をできるだけ速く読み、その後の10問の問題に答えることで、自分の読む速度と理解度を確認しました。また、自分で選んだ本を読んで内容をグループで共有したり、知らない単語の意味や同義語を調べたりする課題もありました。Research では、指定されたテーマについて情報を収集し、レポートを作成しました。レポートの構成や参考文献の書き方を学び、調べた内容を自分の言葉でまとめました。提出前には講師からアドバイスを受け、それを反映して最終レポートを完成させました。Listening & Speaking では、最終週の個人発表に向けて、発表内容や PowerPoint を準備しました。グループワークも多く、特に印象に残っているのは、英語で1分以内の商業動画をグループで制作した活動です。各グループが工夫して商品を紹介しており、英語を使いながら協力して一つの作品を作る楽しさを感じました。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

私はこれらの授業を受けて、特に Academic Writing のスキルを身につけることができました。留学前は、英語で文章を書く際に自分が思ったことをそのまま書くことが多く、文章全体の構成や表現について深く考えることがあまりありませんでした。しかし、Writing の授業を通して、論理的な文章の構成方法や、同じ意味でもより Academic な表現に言い換える方法を学びました。また、実際に文章を書いて講師から添削やアドバイスを受けることで、自分の間違いや改善すべき点を具体的に理解することができました。現在では、ライティングをする際に「この単語は別の表現に言い換えられないか」「どのような構成にすれば、より論理的で Academic な文章になるか」を意識して考えるようになりました。さらに、Research の授業では、複数の情報を調べ、それらを自分の言葉でまとめる力や、参考文献を正しく示す方法も身につけることができました。これらの授業を通して、英語で自分の考えを書くときに、ただ書くだけでなく、相手に伝わりやすいように文章の組み立て方や表現を考えることが大切だと学びました。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、英語で自分の考えを文章にしたり、人前で英語を話したりすることに少し苦手意識がありました。特に、間違った英語を使ってしまうことを気にしてしまい、自分から英語を使うことに消極的になることもありました。しかし、授業では多国籍の学生とグループワークをする機会が多く、英語を使って自分の意見を伝えることが当たり前の環境だったため、少しずつ間違いを恐れずに話せるようになりました。また、Writing の授業を通して、最初から完璧な文章を書くのではなく、先生からのアドバイスをもとに何度も改善していくことが大切だと分かりました。留学を終えた今では、英語を使うことに対する抵抗感が以前よりも少なくなり、「間違ってもまず伝えてみよう」と思えるようになりました。授業を受ける前よりも、英語に対して前向きな気持ちを持てるようになったと感じています。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

私はこの二か月間の留学を通して、今の自分に何が足りず、どのように英語を勉強していくべきかを知ることができました。特に、リーディングとスピーキングの力が不足していると感じたため、リーディングでは、留学中に習慣になった英語の本を読むことを今後も続けていきたいです。スピーキングでは、ホストファミリーや先生が使っていた表現を参考に、英語の映画やドラマから日常会話で使える表現を学び、実際に使うことを意識したいと思います。また、英語は継続して使うことが大切だと実感したため、留学中に身につけた学習習慣を今後も続け、大学での英語学習にも生かしていきたいです。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	T.K	学部・学科	国際教養学部国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	ニュージーランド
派遣大学	リンカーン大学		
コース名	English for Academic Purposes (EAP)		
期 間	2026 年 8 月 3 日～ 2026 年 8 月 28 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

-授業について-

授業は、「EAP クラス」という Writing/Reading/ Listening&Speaking の英語の 4 技能を高めるクラス 3 つに加え、「RS (Research Skills) クラス」という学術的なレポート作成を目指すものがあった。どの授業も英語をアカデミックな視点から学ぶという目標の元組み立てられていた。英語の 4 技能を学ぶ授業では週ごとテーマが変わり、Week1 は「NZ Landscape」、Week2 は「Advertisement」、Week3 は「Mass Communication」、Week4 は「Lifestyle」について学んだ。授業のスタイルとして印象的だったのは、日本では個人作業になってしまいがちな Writing と Reading のクラスにおいても、周囲のクラスメイトや全体でのワークがありコミュニケーションをとる機会が多かったことだ。印象に残っている授業は Listening&Speaking である。特に、日常会話に求められるスピードや言い回しによる文の雰囲気の違いなどが興味深く、現地での生活で意識していた。

RS クラスでは情報収集から学術的なレポート作成に至るまでの手法を学ぶ。

-テストについて-

一番最初にクラス分けテストがある。Writing と Reading の簡単なテストである。その後、Module 内では Reading と Writing のテストが 2 回あった。Listening&Speaking の授業では最終回の授業でスライドを用いた 2 分から 5 分程度のプレゼンテーションがあった。プレゼンのテーマは Week1~4 の中から、またはアカデミックな内容であれば完全に自由を選択できた。プレゼンを全体で行なうかグループ内で行うかはクラスによって異なるようだった。

RS クラスでは最終課題として 500words のレポートを提出した。テーマは「Bodies of Water」であり、事前に開示されているルーブリックに沿って評価される。特に文の構成や形式に着目されていた気がする。

-課題について-

Writing のクラスでは毎週 250 単語のエッセイの提出、Reading のクラスは好きな英語記事を読みシートにまとめること、Listening&Speaking のクラスはリスニングジャーナルの作成が毎週の課題であった。加えて日々の授業で課題が少し出たりもした。必須ではないが推奨される自主学習課題もあった。課題の内容はクラスによって異なる。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

Writing のクラスでの学びが多かったと感じる。Writing のクラスではアカデミックライティングの書き方を丁寧に教わった。Introduction, Body, Conclusion のそれぞれにおいてどんなことを書くか、どのような構成で書くか、どのような単語を使用するか等を学んだ。毎週提出するエッセイには細かく教員からのフィードバックがもらえるため、ささいな間違いにも気づくことができ、自分の傾向がつかみやすく、これからの英語学習にも役立てられると感じる。また Writing のクラスでは Essay に加えグラフや表の説明をする文章の書き方を学んだ。どのような情報を選択するか、文の構成、程度を表す英単語の知識などを学んだ。IELES のテスト問題も練習として扱いながら身に付けていった。Writing の授業に限らず、全ての授業で感じたのは「言い換え」の重要性である。Writing クラスや RS クラスの学術的な文章の執筆中や、コミュニケーションにおいて、自分がしゃべりやすい、相手が理解しやすい英語への変換の習慣が身についた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は文法に自信がなく、間違った表現をしてしまうことを恐れ、自分から発言することを避けていた。しかし授業を経てまずは自分の意見を表現することが大切だと感じ、学校でのグループワークやホストファミリーとの会話においても、話すことを深く考えすぎずとりあえず話始めてみる姿勢が身についたと感じる。英語を話すことに不安を感じなくなったわけではないが、「とにかく伝えてみよう」と思えるようになった。実際話してみると完璧な表現でなくとも伝わるが多くその経験が次につながっていった。また、英語をいまいち習得できないという曖昧な課題を抱えていたが、授業を通して自分の得意不得意、課題が明確になり、これから何を学ぶ必要があるか少しわかった。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

Writing や RS の授業で学んだ学術的な文章の作成方法は大学の授業の英語でのリアクションペーパーやレポート作成の際に生かしていきたい。今回の 1 か月を通して Writing においても継続して練習することが大切だと感じたので自分で英文を作成する機会を作り出さなければいけないと思った。また、留学で身に着けた「とりあえず伝えてみる」という姿勢を日々の授業や生活でも意識して行いたい。これからの英語学習では、リスニング能力と単語向上を目指し、継続して英語を聞く機会、単語を学ぶ機会を設ける。クラスには様々な国籍、年齢の方が集まっており、全員全く異なるバックグラウンドをもっているのにも関わらず英語という共通の言語を通してコミュニケーションをとっていることのおもしろさを実感した。今回の留学はこれからの英語学習の大きなモチベーションとなった。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	N.C	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	ニュージーランド
派遣大学	リンカーン大学		
コース名	英語語学研修		
期 間	2026 年 8 月 3 日～ 2026 年 8 月 28 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業内容は、ライティング・リーディング・リスニング&スピーキングの3項目と、リサーチスキルというクラスを基本としてカリキュラムが組まれている。ライティングクラスでは、「アカデミック・ライティング」ができるようになるための基礎知識や構造を教わる。毎クラスでテーマが変わるため、その時々テーマについてアカデミック・ライティングの構造を意識しながらまずは自作し、その後先生にチェックをもらってリライトして完成させていくというスタイルであった。各回のテーマのタイプを分析し、それぞれに適応した書き方でライティングを進めていく。事象を比較したり、自分の意見を述べたり、図やグラフからの情報を読み取って説明していくなど多様な者に取り組んだ。第3・4週末にテストが行われた。リーディングクラスは、スピードリーディングやスキミング・スキミングなど、リーディングにおけるより専門的なスキルの向上を目指すものであった。特に印象的だったのはスピードリーディングである。A4用紙一枚分に収まるほどの分量の英文(テーマがあり、それについての説明文などが基本)を読み、その後そのテーマについての内容の理解度を確認するためのシンプルな問題10問に答えるというルーティンを行う。ここでのポイントは、なるべく速く読み、問題の7問以上正解を目指すというところだ。全問正解を目指すのではなく、7割以上の理解度を目指すという点で、読むスピードを徐々に上げられるよう取り組むことができた。第2・4週末にはテストが行われた。リスニング&スピーキングでは、他学生とのグループディスカッションがメインであった。テストはなかったが、最終週に一人1分程度のフリートピックプレゼンテーションが行われた。各自pptを準備し、人それぞれ個性あふれる発表を行った。リサーチスキルは、英語で調査したことを英語で論文にする能力を養うプログラムであった。「Two Bodies of Water」というテーマで、各自450-550語の論文を書いた。週に一度の提出で、アウトライン→原案→最終提出というように進められる。毎提出後、先生からのフィードバックがもらえるため、それに応じて修正を繰り返していき、完成させることができた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

英語でライティングを行う際の、英文の構造の立て方を学んだことが特に印象的だった。これまでの書き方は、自らが思うがままに文章を組み立てて書いていたが、イントロダクション-ボディパラグラフ①-ボディパラグラフ②-コンクルージョンという外枠から、その各要素の中にもまた構造が組み立てられているということを初めて学んだため、基本的なところから知識を深めることができた。また、プログラム 4 週間を通して根本のテーマは変わらず多様なテーマでライティング演習を繰り返したことにより、学術的な書き方が叩き込まれたというように感じている。また、リスニング&スピーキングの授業でのプレゼンテーションでは特に、人前で英語を話すことの楽しさが少しだけ実感できたと感じた。各自トピックを選び、発表スタイルや分量なども本当に自由であった。そのため個性が溢れており、聞いている側も実際に自分の発表でも楽しさを見出すことができた。これまで発表では緊張が勝ってしまうことも多くあったが、フレンドリーでユニークな先生のおかげもあり、英語のスピーキングを楽しむ力を身につけることができたと感じた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

日本にいる環境でもオールイングリッシュの授業を受けたことはあったが、実際に海外の大学という環境で学生として過ごすことは、英語という点に限らずとても刺激的でなかなかできない経験だということを実感した。授業でも、日本と異なるスタイルや学生として学ぶ姿勢の違いなど、さまざまな気づきがあったためそれもととても興味深かった。少数ではあったが、同じ教室で学んだ日本人以外の学生（中国・台湾・アフガニスタン等）たちと関わることもとても新鮮であったし、同年代の学生としての同じ価値観や異なる部分など多様な発見があった。彼らの積極性などは、日本人である自分にとって見習いたいと思わされるスタンスだったと思う。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

外国に行くということは観光でもできる中で、留学としてプログラムに参加し、現地の大学で学生として過ごした経験は本当に貴重であると思うため、短期間であったが学んだことを忘れずに、積極的な意識で今後の大学生活に生かしたい。英語に関することは、現地大学で学んだことと、ホームステイ生活などを通して得たスキルを活用していきたい。今後の専門的な活動の中でも、英語を話す機会があると思うため、その際は積極的に取り組んでいきたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	Y.F	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	ニュージーランド
派遣大学	リンカーン大学		
コース名	第2クォータープログラム		
期 間	2026 年 8 月 1 日～ 2026 年 8 月 28 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は4つあり、writing, reading, listening& speaking, research skill という授業だった。Writing では、まず academic writing の構造や、表現を学び、クラスでブレインストーミングをしてから Introduction, Body Paragraph1,2, Conclusion それぞれ書き終わったら先生の添削を受ける形式だった。国際的なテーマやデータをもとに書いた。Reading では、語彙について類義語や例文など詳しく調べたり、ニュージーランドにまつわることを speed reading で学んだり、ペアで行うアクティビティが多かったように感じる。印象に残っているのは、speed reading だ。私は今まで速読というと、多く正解するほどよい、というイメージを持っていたが、実際は10問中7問正解している状態がその時点の自分にとって最も速読できている状態であり、そこから徐々に読むスピードを上げていくように練習するものだを知った。高校のころ少し実践していたスキミングやスキニングを用いて、自分の読むスピードや正答率が全体的に向上し、成果を感じたため印象に残った。listening& speaking では、ニュージーランドの地理や、マスコミュニケーション、消費社会などについて動画の説明を聞き理解しながら、時折グループになりプレゼンをしていた。最後の授業では、授業で学んだテーマから1つ選び、1人3分程度のプレゼンを行った。そのプレゼン発表の時間が、日本のプレゼンの時間よりもフランクで、先生も楽しみながら聞いていたことが印象に残っている。research skill では、国際的な川や湖を調べて2つ選び、歴史や生態系など観点を2つ選び、類似点・相違点のレポートを書くことを最終目標として、毎週、レポートの書き方やなぜ参考文献が必要なのか、といったことを学んだ。多くの生徒は、その比較としてニュージーランドのテカポ湖を1つに選んでいた。私も観光でテカポ湖を訪れる予定があったため、調べてみると、外来種による在来種の絶滅の危険性や、その地域の歴史が知れた。ただの観光にならず、また、日本にない国際的な水源について調べられたのは大きな学びだったと思う。参考文献として Wikipedia を使うことが推奨されていたことは日本と違い衝撃を受けた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

私は主に writing の知識が得られた。グラフについて作文をするときは、outline, detail の構成で書くということ。Conclusion は不要だということがわかった。また、outline では数値を一切書かないこと、また detail では、変化がある重要なデータに絞って書くことで、論理的な文章になると学んだ。また、「現代の技術によって今日の買い物がより簡単になった」と言う人もいれば、それに同意しない人々もいる。両方の意見を述べ、あなた自身の考えを示しなさい。」というテーマは書きにくく、印象に残っている。今までその形式の作文をしたことがなく、Introduction をどう書いてよいのかわからなかった。そのため、最初はテーマの Background を書いた後に、自分の意見をすでに示してしまっていたが、その前に両方の意見があることに触れるべきだと学んだ。Body Paragraph では、自分が支えたい立場の方を後半に持ってくると論理的な文章になるとわかった。また、語彙や表現の重複を避けるため、また自分の表現を増やすために、私はよくウェブの辞典で類義語を調べ文章中の言い換えとして使っていたのだが、先生の添削も受けたうえで、むやみに言い換えるのは不適切であると学んだ。アカデミックライティングでは、どの語が自然か、論理的か、という判断が重要であり、辞典で見つけた語をそのまま使うと不自然な文章になることもあった。そこから、reading の授業でもやっていた、知っている語彙を増やすだけでなく、例文やコロケーションを確認することを意識した語彙学習の重要性も実感できた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、自分の英語能力に自信がなく、高校まで学習した内容も抜け落ちていたため、アカデミックな文章を書いたり、原稿なしでプレゼンをするに対して不安が大きかった。特に writing の授業では、限られた時間でアイデアを出し、論理的な構成をもとに自分で文章を展開することに対して苦手意識があった。Reading や listening & speaking の授業では、自分の単語力やリスニング能力の低さから、自分が考えた答えを発言することが億劫であると感じていた。しかし、実際に授業を受けていくと、先生の個々人に向けた丁寧な添削や、2 週目を過ぎたあたりでの「成長したね」などというお言葉、クラスでの楽しいアクティビティを通して、英語で学ぶことへの不安は和らいだ。また、先生方が生徒の発音などの能力に対して否定的な発言をすることがなかったこと、先生によっても話し方の癖があったこともあり、先生と休憩時間会ったときには自分なりに会話をしようと話しかけるところまで成長した。プレゼンでは、事前に頭に入れていた原稿が飛ぶ瞬間もあったが、その場で言える英語で立て直すことができ、それも自信につながった。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

留学に行ってみて、学生などの若い人だけでなく、大人も多く学びに来ていた。学びたいときに自分から学びに行く、という精神はとても大事だと思ったため、大学での自身の研究中の調査学習や今後の人生の学習においても、何らかの言い訳をつくって学びを諦めるということがないようにしたいと強く思った。英語などの言語スキルに限らず、その分野に対する能力がないからといって、挑戦しないのではなく、挑戦してみてそこからどうすればいいか考えることで成長し、能力も身に付けようという気持ちを持って学業に励もうと思った。また、writing で学んだ構成の型や、語彙の自然さ・論理性を意識した表現の選び方は、

卒業論文作成において生かしていこうと思う。他の授業でも学んだ、理解できる範囲から少しずつ取り組むという姿勢を忘れず、外国の論文も読んでみようと思う。今回の経験を基盤として、英語をより活用し、様々な物事に取り組んで学んでいきたいと考えている。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	M.O	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学 年	2	派遣国	ニュージーランド
派遣大学	リンカーン大学		
コース名	英語語学研修		
期 間	2026 年 8 月 3 日～2026 年 8 月 29 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

初回登校日にテストを受けた後、それぞれのクラスに分けられ、週 5 でリスニング&スピーキング・ライティング・リーディング・リサーチスキルの授業を受けた。リサーチスキルを除く 3 授業では同様のテーマについて、それぞれの観点から学習を深めた。例えば 1 週目はニュージーランドの地理がテーマとして設定されていた。リスニング&スピーキングクラスでは、テーマについての短い発表を 10 分ほどで作り授業内でプレゼンテーション形式で共有した。毎回異なるグループに割り当てられ、異なるテーマに基づいて発表を行う。私のクラスの先生は、発言しやすい環境づくりに長けていたため、どんな些細なことでも質問しやすく、親身になって発表へのアドバイスや感想を述べてくれた。特に印象的だったのは最終週の発表の際に何度も緊張をほぐす声掛けを行ってくださったことである。ライティングクラスでは論理的な英文を書くために文章の大まかな構成について何度も繰り返し学習したのち、テーマに基づいて 15 文から 20 文程度の文章を一授業ごとに行った。時には課題が出され、自分で書き上げたものを先生が添削を行い、後日返却するという流れがあった。私のクラスは添削に対する意見や質問などが行きやすい環境であったと感じている。実際、私の文章に対するアドバイスの意図を授業内でくみ取れなかった際にはメールを通して質問したりして、次の授業内で解説していただくことが何度かありとても助かった。リーディングクラスでは、英文をただ読むのではなく、目的に合わせた読み方を伝授していただいた。日本人として何気ない行っている流し見や速読を英文でもできるようにする訓練がとても楽しかった。スピードリーディングといって、文全体を隅々まで見るのではなく、要点を意識して読むことでなるべく早くそして正確に読む力を鍛えた。毎週末にテストがあり、自宅で解いた。リサーチスキルの授業では、講師から指定されるテーマのもと 450-550 字ほどのレポートを 1 ヶ月かけて完成させる。1 つの授業につき 50 分と短く集中しやすいものだった。8 月からの留学コースでは body of water というテーマに沿って、世界中の湖、河川、海域などから二つ選び、着目する点を自由に二つ決めたうえで分析した。私は国境に位置する body of water をテーマに二つ湖を選び、Wikipedia や英文で書かれた記事などを読み、二つの湖の交通と経済について分析した。参考にする分権は英文で書かれたもののみと指定されていたため、多くの英文記事や英文サイトを読んだ。記事では口語ではあまり使わないような英語に多々触れることがあり、学びが深まったと感じている。また、ライティ

ングスキルで学んだ文法や論理表現を実際に生かせる場としても有意義な授業であったと感じている。この授業でも、頻繁に先生からの添削を受け、自分で推敲を重ねた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

ライティングの授業で文章を論理的に表す力が得られた。初回登校日に受けたテストでは、自分が書きたいことを乱列させてしまい、文章の構成を意識できていなかった。授業では、序論・本論・結論という大まかな枠組みのもと、中でも三つから四つに分類分けした。例えばデータを分析する内容のライティングでの序論では、まず初めに表されているデータは何を測ったものなのか独自に言い換えて説明する。次にこれから何について論じるのかテーマに基づいて言い換えて明らかにする。そして最後に自分の核となる意見を述べる。このような流れをテンプレートとして覚えておくことで汎用性が高まり、それ以降のテストでも落ち着いて取り組むことができた。先ほども書いたが、独自に言い換えるという力が非常に求められた。ただ問題文の通りに書くのではなく、同じ意味を別の語彙表現を使って表さなければいけないところが難しいと感じた。また、同じ表現を使いまわさない点も重要であった。そのためデータが増えたという主張をするにしても増加、上昇、去年より多いなど様々な角度から分析して表す必要がある。これは日本語のレポートであっても通ずるが、英語で言い換えをしようとするとうまくいかず自分の語彙の少なさを何度も痛感した。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

多角的に実践的な英語を学び直したことで、きちんと意味の通ずる会話ができることが多くなったと感じた。渡航してすぐの頃は、ニュージーランド訛りも相まってホストファミリーの会話が聞き取りづらく意思疎通が難しかった。また、語学留学という形で授業を受けに行ったにも関わらず、日本という環境からの変化に対応できず、英語を話すことに少なからず抵抗を感じてしまっていた。しかしながら、授業では学術的なこと学ぶ一方で家ではさらに実践的に英語を使う機会があるため、学びが直結しておりそのことが自信に繋がった。特にリスニング・スピーキングクラスでのプレゼンテーションや会話を通して日常生活で英語を使うこと自体に慣れていったことで、先生に気軽に話しかけるようになった。また、ホストマザーに対しても思っていることや変えて欲しいことを臆せず伝えられるようになった。この部分は現地の学生がホームステイ先に対してはもっと要望を伝えるべきだと助言してくれたことも気持ちの変化につながった要因だと感じている。私自身、ホームステイ先で守らなければいけないルールが他の家とは大きく違い少し生活しづらさを感じていたが、助言のおかげで気を使わず 1 人の大人として他言語を使ってでも意見できるようになった。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学を通して自分には明確に学びたいことを持っていないことに気づいた。現地の学生の専門分野はとても細かく、興味に基づいて授業を熱心に受けている印象だった。一方で自分は親に学費を払ってもらっている中はっきりとした目標もなく日本で授業を受け時間を無駄にしているように感じた。ニュージーランドでの生活はとても濃く自分が今後何を学びたいのか聞かれたり考えることが多かった。また、AI を使わずに地道に調べたり、今までよりも多くの時間を課題に費やし、有意義な時間を過ごせた。今後も怠けずに現地で目標を持って学んでいた彼らを思い出し、これから始まるゼミでも自分の専門性を高めていきたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	N. S	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学 年	2	派遣国	ニュージーランド
派遣大学	リンカーン大学		
コース名	語学研修		
期 間	2026年07月04日 ～ 2026年08月04日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業に関しては、Writing、Reading、Speaking・Listeningの4技能を3つの授業に分かれており、この4技能に加えてResearch Skill 1(RS1)、という学術的なレポート作成を目指した授業の合計4種類の授業があった。また、期間の中でreading、writingのテストが2回、RS1の授業では3回のレポートの提出があった。RS1以外の3つの授業では共通のテーマが設定されており、1週目は健康、2週目は教育、3週目は政治、4週目は芸術について学習した。Writingの授業では1・2・4週目にはエッセイについて学習し、3週目には表やグラフから読み取れることについて文章を書く練習をした。毎日の授業において、宿題が課された。宿題の内容は日によって異なったが、主にテーマが与えられてそれについて授業で習った表現や文章構造を活用しながらエッセイを書くことが求められた。次の授業において、宿題を提出すると先生が文法やスペル、表現について詳しく添削してくれた。Readingの授業では、ペアワークやグループワークが頻繁に行われた。週のテーマに関する文章を読んだり、テーマに関する単語を学習したりした。また、毎回の授業で短い500 Wordsほどの文章をタイムを計り読む時間が設けられていた。毎回行うことで、日に日に読むスピードが上がったことを実感できた。Readingのテストは、難易度が高く時間内に解くためには、情報をすべて読み取るのではなく、必要な情報を選択して読みとる必要があった。Speakingに授業では、日常生活で使えるフレーズについてスクリプトを使いながら学習をした。また、最終週には個人のプレゼンテーションが行われた。テーマは、1～4週間目に扱われたテーマをもとに選択できるため各自個性の出たプレゼンテーションとなり、聞いているのも楽しかった。RS1の授業は、第1～3週目に行われた。3週間を通して、世界のお祭りについて、インターネット上の情報を引用しながらレポートを書いた。1週目は、アウトラインを作成し、提出を行った。アウトラインを先生が添削してくれるので、それをもとに2週目、3週目でレポートを完成させる。最終提出の前にもレポートのチェックをもらえるので、よりよい形で最終提出をすることが可能である。文法的な間違いの私的だけでなく、良い点に関してもフィードバックをもらえるので、自信にもつながる。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

特に印象に残ったのは、Reading の授業である。毎回の宿題に対するフィードバックが、すごく力をつけたと感じている。自分では気が付くことのできないミスも添削をしていたくことによって発見することができた。また、基本的な構造についても具体的にエッセイをもとに解説してもらえるので、理解がしやすかった。

また、すべての授業で共通して言えるのは単語について英辞典を使ったり、先生が難しい単語を簡単英語で説明してくれたりすることによって、微妙なニュアンスをつかむことができた。すぐに、日本語の意味を調べるのではなく、英語でなるべく理解しようとする姿勢を持つことで英語力の向上につながったと考える。

さらに授業ではグループワークが多く実施されるため、他の国出身の友人が多くでき、その友達と英語を使って会話することや、宿題の内容について確認することで自分の考えを何とか伝える力が付いたと思う。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

修を通して、完璧でなくてもいいから自分の思っていることを英語で伝えてみるという考えを持てるようになったと感じている。授業、ホームステイ先での生活、友人との会話などにおいて、はじめはなんて使えたらいいのか分からず伝えことを躊躇してしまっていた。しかし、日がたつにつれて完璧でなくても、すごく簡単な表現でもとにかく伝えてみようとするのが大切だと思えるようになった。また、拙いと思える英語でも案外意図を読みとってもらえると分かった。

加えて、英語学習に関する考え方にも変化があったと思う。これまでは、テストのため、資格取得のためだと思って勉強していた。しかし、研修を通して自分の考えを伝えてもっと交友関係を広げるために英語を学習したいと思えるようになった。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

1 か月という短い期間ではあったが、英語力の向上並びに英語学習にモチベーション向上につながる有意義な時間だった。アカデミック的な内容について考えを深めて、それを英語で表現するという力はこの先に資格取得や進路においても役立つと考える。また、現在 2 か月後に TOEIC の受験を控えている。

試験では、研修を通して学んだ早く正確に文章を読み取る skimming や scanning を使ってスコアアップを目指したい。更に、この研修を通して英語力をもっと上げて、色々な人とコミュニケーションをとりたいという気持ちが芽生えたため、英語を使う機会を自ら見つけて行きたいと思う。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	F.H	学部・学科	国際商学部国際商学科
学 年	2	派遣国	ニュージーランド
派遣大学	リンカーン大学		
コース名	英語語学研修		
期 間	2026 年 8 月 3 日～ 2026 年 8 月 29 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

初日にレベル分けテストがあり、リーディングとライティングの問題をといた。授業は writing, reading, listening and speaking, researching skill の 4 つに分かれていて、どのクラスでもアカデミックな回答や語句が求められる。とくに writing では、文の構成や語彙など様々な観点でアカデミックさを追求されるため、ただ英語ができるだけでは難しいと感じた。授業では 2 回あるテストに向けた練習問題や学術的な文章の構成の解説が行われ、練習で書いた文章は先生に見てもらい一人ひとりアドバイスをもらえた。授業内で書ききれなかった問題がその日の課題だったため、量は多くなかった。Reading は、週に 2, 3 回スピードリーディングをして早く的確に問題を解く練習をした。週に 1 度単語テストがあるため、各々単語リストで勉強してテストに挑んだ。課題はこの単語の勉強と週に 1 つリーディングの課題が出された。テストは 2 回あり、どちらも量が多く、難しい語彙もあったため、授業に対してかなりレベルの高いテストに感じた。Listening and speaking では、私たちのクラスはグループでのプレゼンが 2 回と個人で行う最終プレゼンが 1 回あった。マスコミュニケーションやマーケティングといったテーマを一週間に一つ扱い、グループ発表ではそのテーマについて 10~15 分で準備し、1 分のプレゼンを行った。最終発表では、授業で扱ったテーマの中から 1 つ選びプレゼンを行った。Researching skill は、writing の発展版で、与えられたテーマについて英語で調べ、最終レポートを書いた。この授業では、レポート全体の構成や参考文献の書き方など、英語で論文を書くために必要な知識を身に付けることができた。アウトラインやドラフトレポートの提出が課題であり、最終レポートを完成させるまでに何度かアドバイスをくれた。レポートを書くために様々な文献を見て必要な情報を集めたり、情報をきれいにまとめたりなど、他の授業で学んだ事をすぐ実践できる機会があったのがうれしかったので、researching skill の授業が 1 番印象に残っている。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

ただ英語を読んだり書いたりする力だけでなく、求められているものや状況に応じた英語を使う方法などを身につけることができた。

writing では、アカデミックな文章を書くための構成や表現方法を学んだ。また、グラフや表のどのような点に着目して数値や傾向を読み取り、その説明をどのように深めていけば良いのかを学び、授業での演習を通して身につけることができた。Reading では、問題や目的に応じて、スピードを重視するのか重要な単語をかいつまんて読むべきかなど、どのような読み方をすればいいのか学ぶことができた。また、様々な問題を解いていく中で、それを瞬時に判断し、適切な方法で読み進めることができた。Listening and speaking では、グループワークが多かったので、スピーキング力を向上させることができたのはもちろん、テーマに対して英語で意見を交わして、それをまとめ、発表するという力を得ることができた。日本での英語の授業では、意見を交わすときに結局日本語で話してしまうことが多かったが、他の国の人とも意見を共有しなければならなかったため、必然的に英語で意見交換ができ、日本での学習では得られなかった力を身につけることができたと感じる。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、英語で会話することに自信がなく、自分の意見を言ったり、みんなの前で発表することが怖かった。しかし、クラスのレベルが分けられていることで、みんな同じくらいの英語力でも伝えようとしてくれるし、自分の言いたいことも理解しようとしてくれたので英語を話すのが怖いという気持ちがなくなった。また、授業での意見交換などを通じて、他人の考えを理解しようという気持ちがより一層強まったように感じる。授業を受ける前も、他人の考えを理解しようという気持ちはあったが、実際に意見交換をしてみると、日本にいるときよりも考えの違いを感じた。だが、相手も私の意見を理解しようとしてくれるし、私も自分では思いつかないような意見に興味をもち、前よりもお互いに理解しようという気持ちが強まった。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学では、アカデミックな内容を多く学んだので、今度、英語の授業をとった時に、今回学んだレポートの書き方や文章やグラフの読み取り方を活かしていきたい。また、少し難しいテーマを授業で扱ったときに、語彙力の無さを痛感したので、今後はもっと広い分野で使える語彙を身につけられるように英語の勉強を進めていきたい。特に、商学部での勉強に活用できるような専門的なものも学んでいきたい。また、この留学を通して得たコミュニケーション力は、言語に関わらず、今後の大学での講義やゼミ活動での意見発表やグループワークなどで生きてくると思うので、様々な場面で力を発揮できるように努力したい。